

令和7年度

一般選抜C日程 国語

出題意図

I	<p>三島由紀夫のエッセイ『太陽と鉄』（『太陽と鉄・私の遍歴時代』所収、中公文庫）の一部から出題した。</p> <p>本問は、漢字知識、文法知識、語彙知識、内容読解力、文脈から適切な文学表現を選択する力を問うことを意図して出題した。</p> <p>問一は漢字知識、問二は文法運用能力、問四は語彙知識を問うものである。問三、問五、問六、問七は、内容読解力を判定する問題であり、言葉による芸術を創り上げる筆者における、言葉と現実との齟齬の軌跡を読み取ることができるかどうかを問う問題である。また、文脈から適切な鍵語を選択することができる能力を問う問題として、問八を出題した。</p>
II	<p>隈研吾『自然な建築』（岩波新書）を素材とした。</p> <p>本問は、漢字や言葉の理解力、二〇世紀に関する正しい知識、文章の解釈、文章を読み取り展開する能力を問うことを意図して出題した。</p> <p>特に、的確に文脈を読み取る能力を判定するため問一一を出題した。反対に細部の意味を理解する能力を確かめるため、問八、問九を出題した。また、本書で語られる時代と関連づけ、問一では正しい日本史の知識を問うこととした。そのほか、言葉の理解能力を確認するため、問五や問六を出題した。さらに、文章を読み取り、展開に関する能力を問うものとして、問三を出題した。</p>
III	<p>内田樹『疲れすぎて眠れぬ夜のために』（角川文庫）を素材とした。</p> <p>本問は漢字や言葉の理解力、文学史の正しい知識、読み取ったことを適切に構成する能力、文章を展開する能力を問うことを意図して出題した。</p> <p>特に、文章全体からの的確に文脈を読み取る能力を判定するため、問一一を出題した。反対に細部の意味を理解する能力を確かめるため、問一〇を出題した。また、問三では高校までに学ぶ日本文学史の知識を問うこととした。</p> <p>また、言葉の理解能力を確認するため、問二や問八を出題した。さらに、文章の展開に関する能力を問うものとして、問九を出題した。</p>